

左の如く變つて居る。

	六歳の時	十五歳の時
齒牙の障害	六五	三一 %
扁桃腺膨大	四〇	一四 %
腺 肥 大	四〇	七 %
腺 病	二三	三 %
呼吸障害	二三	九 %
視力障害	一七	二六 %

その他このやうな統計を擧げると、數限りもな  
いが、それ等を綜合して考へて見ると、全兒童の  
七割乃至八割はどこかに物質上の缺陷のあるもの  
であると推測することが出来る。醫學的視察運動

の盛なるアメリカに於てさへ、こんな風であるか  
ら、日本の實情はこれよりも更に甚だしいものが  
あるに相違ない。

私は以上のやうな話の結論として、父兄や保母  
教師の職にある人は、子供の身體的障害の思ひの  
外、多いもので、それが精神の發達と密接の關係  
のあることに氣づいて、子供の訓育や教授を常に  
それらの身體的事情と結びつけて考へて行くやう  
にありたいと思ふのである。それには、子供の身  
體についても少し醫學的知識に興味を持つ人であ  
ることが望ましいと思ふ。

## 露天主義の我が幼稚園

### 附人形病院の話

帝國幼稚園長 西山 愷 治

私の幼稚園の内規の中には「主として體育、徳  
育を奨励し自然的屋外的保有に努力すべし」とい

を項目が掲げてあつて、保母にはその心掛を以て  
保育の任に當つて貰つて居る。一口にいへば露天

主義とでも稱さるべき考で兒童を遊ばせて居るのである。

私の考では幼稚園キンダーガーデンは本來の性質上兒童の遊園であるべき筈であると思ふ。然るに近頃はその本來の意義が不鮮明となり小さい遊藝でも仕込む場所のやうに誤解されて來た傾きがありはしまいか。私はこの點に於て在來の幼稚園に慄おそらないのである。而して自らみづか在來のとは異つた型タイプの幼稚園、最も多く兒童性に適應した幼稚園を作るべく決心するに至つたのである。

兒童成長の要素としては食物、睡眠、遊戲、空氣、光線の五つが數へられる。その中食物、睡眠の二つは主として家庭の關係事である。尤も幼稚園としてはそれらに關してでも氣附きの事項を何くれとなく家庭に勸告すべきではあるが、上の二つに對して主なる顧慮をなすのは當然家庭の務めでなければならぬ。若し夫れ兒童を元氣よく遊ばせ且つ兒童をして空氣と光線とを充分に攝取

せしむることに至つては幼稚園の任務であらねばならぬ。勿論幼稚園は衛生に留意し清潔を重んじ傳染病を豫防するといふ如き消極的の仕事をも行ふが、それ以外更に積極的に兒童の活動性を誘發せしめ、何物の拘束をも受けしめずに兒童をしてのびのびと遊ばせる工夫を講じなければならぬ。

兒童は遊んで居る内にも刻々に發育成長しつゝあるものである。それ故に發育の理想的條件に於て遊ぶことの出來る兒童は幸福である。而して遊ばせるためには何處を選ぶべきかといふことが考察を要すべき問題となるのであるが、畢竟屋内保育と戶外保育とを比較研究してみたならば、その結果は自然この問題を定むることとなるであらう。

建築の設計に於て如何に完全に衛生的條件に適つた校舍と雖、空氣の流通、光線の普及といふ點に至ては到底戶外とは比較にならないのである。況んや限られたる室内に於ては多數の兒童の呼吸によつて空氣は汚濁となり、塵埃は浮動し白墨塗

板は塵埃を製造するのである。文部省指定の建築條例には建物の三分の一以上の採光窓を有せざるべからずといふことになつて居る、併しこの條例に適つた建物と雖も遮るものなき戸外の光線に若かないことは無論である。

近代の文明生活は吾人をして屋内の生活を餘儀なくせしめる場合が多いのであるから、之に對しても戸外生活は必要であると力説する識者が尠くない。西洋では事實この戸外生活を行つて居る者が多く、幼稚園等でもこの戸外生活に多大の注意を拂つて居るのである。然るに日本に於ては如何といふに我國に於て普通立派な幼稚園と稱せらるるものを見るに、その多くは立派な建物を有する幼稚園を指して言つて居るやうである。關西地方に於ては保育事業が殊に發達し幼稚園の建物に何萬圓といふ金をかけ、二三百人の兒童を收容して居る所なほあるが、斯るは幼稚園本來の性質を失つて學校になりかけて居るといふべきである。

世の父兄達がその兒童を幼稚園へ託すといふのは、兒童に友達がないとか、或は有つても悪い友達であるとか、母親が兒童の遊び相手をして居られないとかいふ理由からであるが、尙この他に自分の家には廣々した庭がないからといふやうなことも理由とせられて居る場合が尠くないと信ずるのである。

然るに建物ばかり立派で運動場の狭い幼稚園は本當に幼稚園の使命に兒童を託さうとする親達を失望させるわけである。都會の幼稚園を見ると百人の兒童を收容して建物に百坪以上の土地を取つてゐながら、運動場が七八十坪しかない所がある。これでは園兒一人には付一坪宛といふ文部省の規定にも外れて居るわけである。しかし今日では一人一坪宛などといふことは市内では贅澤な要求であつて、實際に於ては二人一坪、三人一坪位の割合となつて居るのである。これでは兒童を愉快あたりまへにのびのびと遊ばせることの出来ないのは當然

である。私は斯る幼稚園を見ると小さな金魚鉢に放たれた多数の金魚が、あちこちと支えまわりながら窮窟さうに泳いで居るみぢめな様を思ひ出して、見るに堪えないのである。這麼金魚鉢式の幼稚園では兒童をして愉快な一日を送らせることは到底出来ないのである。一體深く考へもせず無暗と設備に金をかけたがるのは愚の甚しきものである。兒童は金のかゝつた設備のために必ずしも常に愉快なり得るものとは限らないのである。兒童が飽きずに何時までも喜んで遊ぶのは鞦韆位なもののである。固定圓木の下には草が生えるのもう飽きてしまふので圓木の下には草が生えるのである。兒童は靜止的な玩具よりも自分と共に動くものを好むのであるから、靜止的な金のかゝつた諸種の設備玩具は親達を安心させ參觀人を驚嗜せしむる外には太した効能のないものである。若しそんな金があるならば運動場を取擴げてやる方が兒童のためには遙かに幸福なことであらう。幼稚

園の成績を知るには兒童の數と運動場の面積とを比較して一人の兒童が幾何の土地を占め得て居るかといふことを見るのも一法たるを失はぬのである。

市内では兒童の活動する範圍が漸々に狭められて來た。中流以下の家庭では兒童の自由に遊び得るやうな廣い庭を持つことは困難である。都會の兒童は遊び場所に窮してよく途上で遊ぶのであるが、さうすると直ぐ警察から矢筈しく言はれる。而已ならず電車や自動車の間斷なしに往來するので、落付いてのびやかな心持で遊ぶなどといふことは到底出来ない。兒童は危険な瞬間を偷み偷み遊ぶのであるから危険此上なしである。それであるから、せめて幼稚園に行つてゐる間だけでも思ふ存分自由に遊べるやうにしてやらなければならぬのである。然るに一般の幼稚園はこの目的のためによく準備せられて居るものとはいへないのである。これは兒童にとつて誠に悲しむべきことで

ある。

それから私は兒童を育てるためには家庭は兒童中心であらねばならぬと思ふ。然るに世には随分親達の便宜のために兒童のために當然なざるべきことを怠つて居る家庭が尠くない。是等も考へ直さなければならぬことであると思ふ。

衣食住の三つに就て見ても兒童のためにといふことが一向計畫されてゐないことが分る。食物の如きも親達の嗜好のみを考へて兒童の消化機に就て考慮を廻らすもの、尠いのは慨しいことである。小兒科に胃腸病患者の多いのは親達が兒童の食物に氣を附けないといふ何よりの證據である。兒童の消化力や嗜好や食物の含む營養分の割合等をばもつと詳しく研究して見るに必要がある。

次に衣服に就て言へば兒童には先づ仕事着を着せてやるつもりで、華美なるものを避けるやうな方針にしたいと思ふ。遊戯は兒童に取つては大な

る仕事である。兒童の場合に於て遊戯は直ちに仕事と解釋さるべきである。それ故に兒童には仕事着を着せてやり兒童がその着衣を汚したからとて決して叱つてはならぬ。何故ならば衣物の汚れて居るのは、彼等が如何によく遊んだか、即ち如何によく仕事をしたかといふことを語つて居るのだからである。兒童のためには汚してならない衣物が一枚あるよりも、汚していゝ衣物が二枚三枚ある方が餘程爲めになるのである。故に幼稚園へは決して綺麗な衣物を着て來るには及ばないのである。然るに世の母親達の中には兒童を幼稚園へ出すには衣物もチャンとしたものを揃へなければならぬからなぞと言つて、兒童を幼稚園へ送り得ない理由の一とされる向きもあるが、是等は考違ひの甚しいものである。住居に就て見ても一番最初に述べた通り兒童の活動性を満足さすべき廣い庭や保育室其他の設備を完全に備へた家庭は滅多にない。故に我國の家庭なぞではもう少し兒童を本

位にして、衣食住を考へて見る必要があるのである。

我國では幼稚園でも小學校でも實際は兒童本位で之を經營して居るのか何うか分らないといふやうなのが随分あるのである。小學校などでも教員が汗水垂して三十分なり四十分なりの説明をして居るのに生徒は先生とは沈交渉に傍見をして居ることなどは多い。教員が生徒の前に並ばせて置いて教授法の一人稽古をして居るやうなものである。

これでは兒童に力が附かない筈である。兒童にはもつと自習自學をさせて自から骨を折らなければならぬ。保育とてもその通りであまりに世話を焼きますと兒童は自棄氣味になつて來るものである。あゝしてもわるい斯うしてもいけないとなる。兒童は何もせずポカンとして居なくてはならぬこととなる。これは兒童には到底堪え得る所ではないのである。故に干涉好きの保母は良保母と

は言はれないのである。斯る保母は兒童の方で之を敬遠してその居ない所でわるいことをするやうになるものである。話が少し傍路に行つたが、さて言はうとしたところに戻ると一體この頃の教へたり育てたりする人は骨惜みをする傾きがあるやうである。教授に類したこと、運動場で遊ばせること、は保母に取つて孰れが骨が折れるかといへば、これは無論後者の方が骨が折れるのである。兒童を廣い運動場に四散せしめて自由に遊ばせ、間違のないやうに氣を附けるといふことは却々大變なことである。おしつこをしたといふのがあつて泣くがある。二つの目と二つの手ではとても多くの園兒の監督は覺束ない。故に大抵の保母は遣り切れなくなるとすぐ鐘を鳴らさせて保育室内に兒童を導き入れホット一息吐くといふわけである。而しておはなしとかうたとか比較的身體の樂なことをして兒童の時間を過させるものが多

い。その結果知らず識らず詰らぬ智識を授けることとなるのである。この點なども今少しく眞面目に考へられねばならぬと思ふのである。

私の幼稚園では朝兒童が集ると先づ兒童の好きな唱歌を三つか四つ歌はせる。それから午前中は全部遊びである。大體に於て放任主義で間違のないやうに兒童各自が充分にその活動性を發揮するやうにと努めて居る。園内は廣く、草も生えて居るし、清い溝流みなながれもある。兒童はこの園内で走つたり飛び刎ねたり鞦韆へ乗つたり、水いたづらをしたり、草の花を摘んでまゝごとをしたりして勝手次第に遊ぶのである。手足の汚れたのを洗つてお辨當を食べ午後も亦運動場へ出て自由に遊びまわつて居る。何しろ四十人の兒童に四百坪の運動場があつたのである。一人十坪宛になつてゐるわけとなるのである。それから又私のところでは裸足になるとを奨勵して居るので兒童は皆足が丈夫である。戸外で充分な空氣と光線とを攝取して居るの

で、私の幼稚園の兒童は市内の幼稚園の兒童に較ぶると顔の色艶いろつやなどは生々として血色が大變いいことにしてある。斯くして午後四時までは充分に遊ばせるのである。最も夏季には疲勞の度が強いので九時から三時までといふことになつて居る。それから又幼稚園の近くに低い丘があつて、その丘の上に森があるので時々この森へも連れて行くことになつて居る。私の幼稚園ではつまり徹頭徹尾露天主義なのである。手技は一週に一度位しか課さない。都會の幼稚園へ兒童を預けた経験のある母親等は手技の時間のあまりに少いのを心配して聞きに來られる方もあるが、私は何時も「それで大丈夫です」とお答へして居る。空氣と光線の充分なところで兒童を元氣よく遊ばせることが出來れば、幼稚園の任務は盡されて居るといつてもいいのである。これさへ完全に行ふことが出來れば唱歌や手技などは何うでもいいのである。

それから話は別になるが、私は一昨年から人形病院といふものを始めて居る、人形は子供には生命あるものとして取扱はれて居るのである。抱いてやつたり負うてやつたり縁側からおしっこさせてやつたりした人形がこわれたからといつて直ぐに塵箱へ棄てられて了ふのは可哀想である。首だけの人形やもぎれた手だけを見るのは大人にとつても心持のよくないものである。斯ういふ無惨な形に兒童が馴されてしまふといふのはよくないことと思ふので眼をいためた人形や内臓をいためた泣かなくなつた人形や足のなくなつた人形や顔頭病にかゝつた人形や顔の艶の剝げかゝつた人形や凡そ人形の病氣はすべて皆手術を施して、元の通りにして退院させるといふことにしたのである。

幸ひ人形を直すことの上手な人を一人見附けたので甚麽バラバラになつた人形でも原價の三分の一以内の入院料で全快させてやる事が出来る。

今日までに私の人形病院に入院した人形はざつと六百人ばかりある。私は人形病院設立の當時新聞や雑誌にこのことを發表したので、地方から小包みにされた人形が續々入院して来る。この人形病院は兒童の優しい感情を害はせまいとする主旨の外に、人形が怪我をしてさぞ痛からうといふ同情心延いて可哀想な人形を入院させてやらうといふ親切心を起させるためにも必要であると思つたのである。それから又二錢か三錢で毛の無くなつた人形や首のとれた人形が元の通りになつてかへつて來るといふことは兒童に全く有難さを具體的に知らしむる最もよい方法であると信じたのである。私の幼稚園では「人形病院の歌」といふものを歌ふのである、御参考までにお目にかけてあげれば次の如くである、

#### 人形病院の歌

(一) かあさま、かあさま、私の

可愛い人形が、きのふから



どうしたとか、手を痛め

いたい痛いと言きまする

(二) あら可哀想に可哀想に

それでは人形病院へ

入院させてなほすやう

早くお願いなさいませ

(三) あら嬉しいの、嬉しいの

あんな手なしの人形が

今日は私にだつこして

につこと笑つて居りまする

(「私の人形」の譜)

(文責在記者)

### ○保育所の特徴

(生江孝之氏)

一、乳児死亡の減少、現今歐洲では大に乳児の死亡減少に努力し英國の如きは千人中百二十人に減少せり。之が爲に乳母に乳児の取扱方法を教ふる乳母相談所を設けたる所多し。其結果獨逸にては之を設けざる地方は百分中十四の死亡率あるに拘はらず。設けある地方は百分中五・八に止まれりと云ふ。日本に於ても明治廿一年頃より今日の状態を見れば、乳児の死亡約五割を増せり。之

れが應急の救済策を講ずること必要なり。

二、幼児健康の増進。日本に於ける一才乃至五才の乳児死亡の割合は英佛に比し殆んど五倍なり。我徴兵検査の結果は不合格者の多き地方は、乳児の死亡率も亦高きことを示せるより見れば、乳児の死亡は強ち弱きもの、死亡するのみに非らざることを知るべし。保育所の設置の必要之を以ても推することを得。

三、幼児智識の開發。細民の家庭に諸種罪惡の嫩芽たる悪習癖の行はるゝことは否定すべからず。保育所に收容せる兒童は、此悪習に遠かり其智識を開發せらるゝのみにても、充分の效果を得べし。之れ其特徴の一とする所以なり。

四、母子恩愛の持續。他の方法によれば母子の愛情を理會せざる子供を生ず。保育所の小兒は夜間母と共に寢食しく相互の愛情も傷けらるゝことなし。

五、育兒院收容兒童の減少。孤兒院中には孤児のみならず貧兒の收容も多し保育完全に行はれたらば、一家貧なりとも家族揃ふて生活し得、育兒院收容の兒童數減少すべし。

六、家庭収入の増加。母親の安じて勞働し得る爲め。

七、獨立心の助長。保育所は原則として保育料を徴收す。幾分の義務を盡せりてふ觀念は、獨立心を損せず、却つて之を助長せしめうべし。

八、経費の減少。孤兒院に比し著しく経費を減少す。

九、家庭の改良。家庭を訪問するとは保育所の任務の一なり。家庭を改良することは訪問によりて充分に遂げらるべし。鮫ヶ橋の如きは其細民一圍總てが、二葉幼稚園の當事者を尊敬せり。

(X)